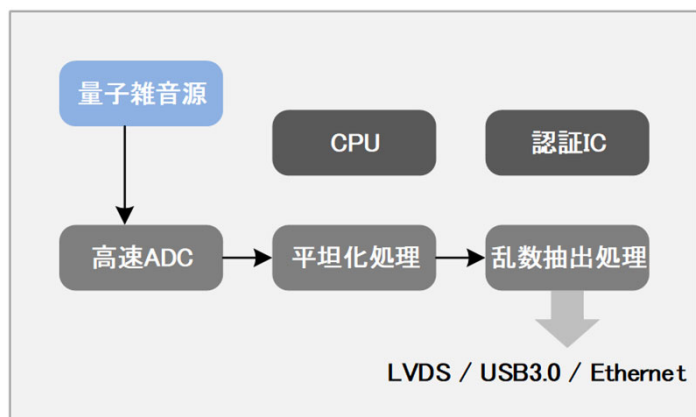


高速物理乱数生成装置



外観



ブロック構成図

○ 特徴

- ・ランダムな物理現象に基づき、真性乱数を生成
量子乱数発生回路(NICT考案)を小型化し搭載。
- ・乱数抽出回路には情報通信研究機構(NICT)考案の自己鍛錬型エクストラクタ
(特開2018-147092)を採用
(NIST Special Publication 800-22 /-90Bをパス)
- ・高速なリアルタイム物理乱数生成を実現
 - a) 1.244Gbps(SMAコネクタ、LVDS、リアルタイム出力)
 - b) USB3.0 インタフェースによる乱数高速転送(1Gbps)
- ・保守用インタフェース
RJ-45(10Base-T/100Base-TX/1000Base-T)、前面鍵付き蓋で保護
- ・19inchラック搭載可能。高さ2UIに収容
430(W)×370(D)×88(H)mm
- ・セキュリティー機能
 - a) One Wrap Around 構造により、解体しにくい仕組み。
 - b) 解体時には、認証用の鍵情報を無効化
 - c) ECDSAによる個体認証

○ 接続例



QKD装置との接続(外部クロック同期)



USB3.0によるサーバーとの接続

仕様は予告なく変更することがあります